

SDV を支えるコネクティビティの核心

～なぜ“つながり続ける”必要があるのか、

設計・運用・セキュリティで読み解く～

— 講師 —

NTTドコモビジネス(株) 5G&IoT サービス部

グローバルコネクテッドカー担当ディレクター 玉井 佑治 氏

日時 2026年4月28日(火) 午後2時～4時
受講方法 ライブ配信／アーカイブ配信(2週間、何度でもご視聴可)

[重点講義内容]

SDV の価値は『更新×データ×クラウド』を回し続けることにあり、コネクティビティはその前提条件です。本講演では、グローバル展開で直面する品質・コスト・規制の壁を整理し、ローミング強化、eSIM/RSP(SGP.32)、統合管理(CMP)、NTN、Network API までの設計原則と運用モデルを解説します。

加えて、コネクティビティに関連してセキュリティ面で実サービス運用の中で見られる事象の紹介や対策、その他アップデート運用(段階配信・一斉発動回避・監視/可観測性)の観点も深掘りします。

1. SDV におけるコネクティビティの位置づけ
2. グローバルコネクティビティの壁
3. ローミングを“強くする”設計
4. eSIM/RSP と SGP.32
5. 統合コネクティビティ管理(CMP)と運用
6. さらにつながる —NTN や Network API
7. セキュリティ・アップデート運用
8. 質疑応答

PROFILE 玉井 佑治(たまい ゆうじ)氏

NTTドコモ入社。コアネットワーク、国際ローミングなどの技術分野を対応、その後、海外赴任を経てIoT・コネクテッドカー業務に従事。

現在はNTTドコモビジネス(旧NTTコミュニケーションズ)に移り、5G&IoT サービス部 グローバルコネクテッドカー推進部門担当ディレクターとしてさまざまな自動車メーカーとのコネクテッドカー共同開発プロジェクトを主導。

